

# 目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第74号 2017年3月

発行人：吉田 博行 編集長：田島 順一郎 事務局長：安藤 孝  
事務局：〒152-0002 目黒区目黒本町6-4-16 Tel 03-3716-7477

## 2017年新年会を開催

2017年目黒稲門会新年会は、1月15日(日)午後4時から目黒雅叙園にて開催され、会員・ご家族75名、来賓4名、招待現役学生2名、計81名が参加した。



笠谷興一朗幹事の司会で、第1部講演会では小堀 守氏(日本政府観光局理事)を講師に招き、「訪日外国人旅行者4000万人に向けて」と題した講演が行われた。小堀氏のニューヨーク、ロンドンに

駐在した経験に基づく国内外の観光振興のエピソードを拝聴した。(講演要旨後述)

小堀氏への質疑応答の後に場内は休憩に入った。午後5時からの第2部懇親会は、再び笠谷幹事の司会により、吉田会長から新年の挨拶があった。

(会長挨拶要旨)

「皆様、明けましておめでとうございます。

母校・早稲田大学は「Waseda Vision150」の実現を目指し教育改革、研究力の強化、校友・社会と連携した事業等、大学運営の大改革を推進しています。あの記念会堂は、「早稲田アリーナ」としてスポーツミュージアムや学習スペースなども併設した多機能型スポーツ施設に変貌します。我々は母校の活動に微力ながら出来る限りの応援をしてゆきたいと存じます。

会員の構成年齢が毎年上がっています。口コミの勧誘が一番効果があります。会の発展のためにもご協力宜しくお願い致します。



おわりに、会員とご家族の皆様のご健勝と、ご多幸をお祈り致しまして新年のご挨拶と致します。」

続いて、来賓の岡本宏一・早稲田大学総長室長、青木英二・目黒区長から挨拶があり、岩崎正夫幹事の発声で乾杯、歓談となった。

歓談中、現役学生が紹介され、深澤真由子さん(先進理工学部4年)、前田 眸さん(社会科学部3年)から挨拶があった。



左：前田さん 右：深澤さん

新年会初参加の橘 かがり会員、奥村忠男会員が紹介され、挨拶をおこなった。



左：橘会員 右：奥村会員

その後、井村副会長から東京都23区支部大会の案内、金井副幹事長からボランティア活動への賛助要請、中西元樹・若木会部会長から昨秋の目黒シティラン参加が報告された。

本年、米寿を迎えられる荒瀬修一郎会員、島田久家会員に花束が贈呈された。



新年会の締めくくりは都の西北。松田哲也会員のリードで大きな輪になっての校歌斉唱。

中締め挨拶は、岩崎春雄幹事。講師、参加者への謝辞を述べ、予定時間通り閉会となった。（笠谷 記）

#### （小堀 守氏講演要旨）

今やインバウンド（訪日外国人旅行者）という言葉が定着しており、流行語大賞にもなった。インバウンドの数は2011年には東日本大震災で、前年の860万人から630万人に落ち込んだ。それが、2016年には2,400万人と急成長をとげた。この大きな理由はアジアの経済力向上にある。とはいえ、2,400万人は世界で16番目にすぎない。8,000万人台のフランス、アメリカ、中国が観光大国となっている。

外国人旅行者は平均して日本に6泊し、約20万円を消費、金額の合計は3兆4,700億円（2015年）になる。2020年には人数を4,000万人にして、金額を8兆円にするのが目標だ。我々は全省庁、全都道府県と連携してこの目標に取り組んでいる。

インバウンドで最も多いのは中国人の630万人だが、中国人の出国者は1億2,000万人もいる。中国の人口13億のわずか0.5%しか日本に来ていない。インドの人口も13億ある。その1%が日本に来てくれば、優に1,000万人を超すことになる。インドからの招致をめざしてデリー事務所の開設準備を進めているところだが、多様な言語、多様な食習慣があり、日本に来てもらうにはなかなか難しい面がある。今、欧米からのインバウンドの9割は個人旅行者で、6割がリピーターである。それを支えているのがITで、彼らはネットで予約し、日本に来てからもスマホを駆使して情報の収集をしている。そこで重要になるのがWi-Fi網の整備だ。3年前から力を入れており、だいぶ改善されたが、まだ韓国、シンガポールに及ばない。また彼らは日本で母国の友人・知人へSNSで情報発信をしている。栃木県に

「あしかがフラワーパーク」というのがあるが、外国人の来園者が飛躍的に増えた。「この藤は世界一だ。ぜひ見るべきだ」と発信されたことが大きい。

インバウンドを増やすには、このような口コミが非常な威力を発揮する。

2020年のオリンピック・パラリンピック時には50万人以上が来日すると予測されている。彼らが最初に日本に到着するのが空港だが、政府は入国審査を20分で終えることを目標にしている。また、宿泊するホテルのフロントの英語力はこの5年で大きく向上した。今やホテルや航空会社だけでなく、鉄道会社、レンタカー会社、飲料会社がインバウンド対策に取り組んでいる。人口、利用者が減っていく中で、外国人旅行者を取り込まなければ成長が見込めないからだ。

「おもてなし」は精神論だけではなく、外国人旅行者が何を求め、何に困っているのかを理解し、最低限のことをしてあげられることだと思う。このような本当の意味での観光立国をめざしていきたい。

#### 新年会出席者（敬称略、五十音順）

（来賓）

青木英二・目黒区長

小堀 守・講師 日本政府観光局理事

岡本宏一・早稲田大学校友会常任幹事兼総長室長

梅原竜司・早稲田大学校友会事務局長

（招待現役学生）

深澤真由子（先進理工学部4年）

前田 眸（社会科学部3年）

（会員・ご家族）

朝比奈義雄、荒瀬修一郎、安藤 孝、安藤虎雄、安藤嘉昭、石川智子、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤 悠、稲垣博信、稲垣令夫人、猪名川一雄、井村正陽、岩佐好恭、岩崎春雄、岩崎正夫、岩田 修、鶴野洋治、海口昭治、大内秀明、大久保健治、大久保令夫人、大杉邦雄、大竹一子、大野利幸、奥村忠男、小倉利允、笠谷興一朗、梶 恵作、柏木 博、金井豊男、狩野俊夫、川井信義、川崎真樹子、郡山弘文、郡山令夫人、小杉 哲、後藤克彦、佐久間 喬、澁谷瑠璃、嶋田勝彦、島田久家、高野 孝、高橋圭吾、高橋真美子、田添麻友、堀合 努（田添）、堀合義統、堀合摩利、堀合将統、橘 かがり、田畑 繁、地田博昌、千野逸平、手塚仁雄、外岡 明、中上美代子、永田耕治、中西元樹、成田隆一、服部尚彦、林田雅敏、牧野武夫、松田哲也、眞仁田 勉、丸山忠生、宮村直身、村上 柁、村山 弘、保井 正、吉田博行、吉田令夫人、吉野博明、吉本政治、吉本令夫人

# 目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第73号 2016年12月

発行人：吉田 博行 編集長：田島 順一郎 事務局長：安藤 孝

事務局：〒152-0002 目黒区目黒本町6-4-16 Tel 03-3716-7477

## 2017年 新年会開催のご案内

2017年新年会を、1月15日(日)目黒雅叙園にて下記の通り開催致します。

年の始めの例として、心新たに新年会。互いの健康と発展を祈り、稲門校友益々の隆盛を期する。楽しい各部活動の一年の始まりです。いつもおなじみの方も、久々に参加される方も、臙脂の旗のもとに集い合い、おいしい料理と飲み放題のお酒で、大いに語り合おうではありませんか。学生時代の思い出に花が咲き、盛り上がったところで全員肩を組んで歌う都の西北に青春の熱い血がたぎり、すがすがしい一年の出発になることと思います。

本年は、日本政府観光局理事の小堀 守氏に、「2,000万人へのおもてなし～観光立国をめざして～」の演題で、講演をお願いしています。2020年の東京五輪を控え、世界から多くの友を迎える日本の問題点を考えます。

皆様には新年行事等多多用のところ、ご家族おそろいで多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

### 記

1. 日 時：2017年1月15日(日)16時開会  
(受付開始 15時30分)
2. 会 場：目黒雅叙園3階「シリウスの間」  
東京都目黒区下目黒1-8-1  
電話 03-3491-4111
3. 講 演：16時～17時  
講師 日本政府観光局 (JNTO) 理事  
小堀 守氏  
演題 「2,000万人へのおもてなし  
～観光立国をめざして～」
4. 懇親会：17時～19時
5. 会 費：会員10,000円、ご家族5,000円  
当日会場受付にてお支払い下さい。
6. 同封の返信用はがきを、12月23日(金)までにご返送下さい。

### 講師プロフィール



小堀 守氏

1955年 栃木県生まれ  
1977年 東京外国語大学卒業  
1977年 特殊法人国際観光振興会(現・日本政府観光局)入会  
1986年 ロンドン観光宣伝事務所  
1998年 ニューヨーク観光宣伝事務所  
2007年 コンベンション誘致部長  
2010年 総務部長  
2011年 海外プロモーション部長  
2015年 理事就任

訪日外国人が2,000万人を突破しましたが、我が国が抱える問題点として空港のキャパシティ(発着枠)、入国審査の長時間化、宿泊設備不足、地方での受け入れ態勢の未整備等々が指摘され、また、文化・伝統の違いから外国人観光客との間で誤解・あつれきが生じることも少なくありません。

2020年の訪日4,000万人時代、さらにはその先に向けて、これからは「地方創生のための観光地域作り」「観光の質の向上」がカギといわれています。

講師の小堀氏は日本政府観光局(JNTO)での海外経験も長く、世界の観光情勢や日本におけるインバウンドの現状をふまえ、観光産業の重要性、課題、国が目指す取り組みについて興味あるお話が伺えるものと思います。(田島 記)